



乃木小だより

～ かしこく つよく やさしい子 ～

～まつえ 湖南学園～
松江市立乃木小学校
令和6年1月23日
(文責) 校長 野津

今年のお正月は特別な幕開けでした。元日に発生した能登半島地震にはたいへん驚かされました。お亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申しあげますとともに、被災されました多くの皆様及び関係者に心よりお見舞い申しあげます。

いまだに安否のわからない方も大勢いらっしゃるようです。余震が相次ぎ、時折降り続く雪や寒さのなかで、避難所でも不安が募る状況と聞きます。学校での貴重な学習の機会を確保するため、しばらく親元を離れ安全な施設で集団避難している子どもたちのニュースを見ると胸が痛みます。

また、現在各地の被災現場で救済支援と復興に尽力されておられる方々に深く敬意を表します。石川県珠洲市と姉妹都市である松江市からは、地震発生から数日後さっそく先遣隊が向かい、支援を進めておられるそうですが、行政等の関係者は、長期的な支援も視野に入れ、他の自治体以上に高い関心をもって対応しておられると聞いています。

被災された方々の一日も早い安心できる穏やかな生活と、地域の復興を願っています。

さて、乃木小学校でも新しい年、令和6年がスタートしました。いつもと同じ時間が流れているにもかかわらず、少し肌寒く冷たい風の流れる年の始めの新鮮さは、格別なものがあります。始まりは、自分で目標をもち、成長させるチャンスの時でもあると言えます。

年が明けた冬休みの最中でしたが、大谷翔平選手より全国の小学校等に3個ずつ贈られてきた野球のグローブが本校にも届きました。大谷選手からは「グローブを寄贈することで、子どもたちが野球というスポーツに触れ、興味を持つきっかけになってほしい」という願いに添えて、「このグローブが、私たちの次の世代に夢を与え、勇気づけるためのシンボルとなることを望んでいます」というメッセージもありました。

1月9日(火)の第3学期の始業式では、さっそくこのグローブを披露し、大谷選手にまつわる以下のような話をしました。

昨年行われたWBCやメジャーリーグで二刀流として活躍し、2度目のMVPまで獲得した大谷選手は、幼いころからプロ野球選手に憧れ、「ドラフト1位で8球団から指名される」という夢をかなえるために必要な具体的行動を書き込む「目標達成シート」を活用して、日々努力を重ねたそうです。



「目標達成シート」には、プロ野球のドラフトで指名されるという夢をかなえるために、「マングラチャート」という形で、何をすべきかを具体的な行動として書き出しました。それが次の8つです。「体づくり」「コントロール」「キレ」「スピード」「変化球」「メンタル」「人間性」「運」。そして、その8つの項目が達成できるように、それぞれについて、さらに具体的な行動を書き出しています。

「目標達成シート」にあるように、今の太谷選手があるのは、単なる才能だけではありません。自分の夢をかなえ、超一流の選手となった所以は、苦しい練習を続けていくことはもちろん、普段の生活の中で、「誰でもできるけれど誰もやらないことをやり続ける」姿勢や、周りの人への気配りを心がけていたからだと言われています。

太谷選手は、目標の達成には自分の努力によって「運を呼び込む」ことが必要と考えました。その手段として「運を呼び込む」ために、日頃からきちんと挨拶をしたり、道具を大切に使用したり、また、ごみを拾うことなどが大切と考え行動し続けたそうです。ごみを拾うことは「幸運、つまり良い運を拾うことになる」と心がけて実践したそうです。

あいさつ	ゴミ拾い	部屋そうじ
道具を大切に使う	運(うん)	審判さんへの態度
プラス思考	応援される人間になる	本を読む

2024年、辰年。勢いよく天に向かって昇る龍のように、乃木小の一人一人が、自分の目標に向かって様々なことに挑戦し、大きく成長する素晴らしい1年になることを願っています。

12月19日～20日の2日間、5年生が、島根県立青少年の家（サンレイク）にて宿泊研修を行いました。本来、10月に島根県立江津少年自然の家にて行う予定でしたが、インフルエンザ流行の影響を受け今回の実施となりました。当初の予定とは少し違う形となりましたが、5年生は充実した2日間を過ごすことができました。主な活動は、館内ラリー、創作活動（焼き杉作り）、キャンドルのつどい、湖遊館でのアイススケートなどです。

学校とは異なる環境のもとでの集団生活で、友達と寝食を共にし、仲間と協力しながら様々な活動に取り組みました。4月から最上級生になるのを前に、貴重な経験となりました。

5年生は、もうじき6年生からバトンを受け継ぎます。年度末に開催の「6年生を送る会」に向け、目標をもち、在校生のリーダーとして計画や準備に今しっかりと取り組んでいます。



新年恒例の皇居で行われる「歌会始の儀」では、今年は「和」をお題に、天皇陛下が、「をちこちの旅路に会へる人びとの笑顔を見れば心のみぬ」と詠まれたそうです。やっぱり暮らしの中の「笑顔」がいいですね。今年も乃木小の子どもたちが、「未来に向かってひとみかがやき笑顔あふれる」日々を送り、様々な人とかかわりの中で和やかなひと時をたくさん味わってほしいものです。乃木小を支えてくださる多くの皆様にとりましても、明るく、和やかな心の毎日となりますように。本年も、変わりませずよろしくお願いいたします。